

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号.

特開2001-88375

(P2001-88375A)

(43)公開日 平成13年4月3日(2001.4.3)

(51)Int.Cl. <sup>1</sup>	識別記号	F I	キーワード(参考)
B 4 1 J 11/02		B 4 1 J 11/02	2 C 0 5 6
2/01		3/04	1 0 1 Z 2 C 0 5 8

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平11-272544

(22)出願日 平成11年9月27日(1999.9.27)

(71)出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72)発明者 西端 望

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ

ノン株式会社内

(74)代理人 100088328

弁理士 金田 暢之 (外2名)

Fターム(参考) 2C056 EA27 FA10 HA29 JC15 JC23

2C058 AB18 AC07 AD02 AD03 AE09

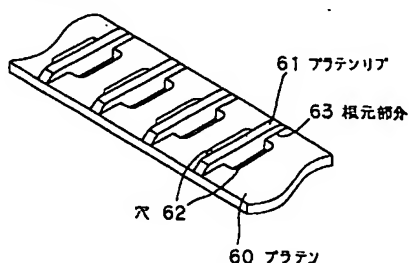
AF31 DA11 DA34

(54)【発明の名称】 インクジェット記録装置およびインクジェット記録方法

(57)【要約】

【課題】 プラテン60上に付着したインクをスムーズに排出する。

【解決手段】 プラテン60上には、被記録媒体を適正な記録位置に保持するための突起であるブラテンリブ61が設けられており、ブラテンリブ61の根元部分63の両側には、ブラテンリブ61の側面に沿うように穴62が開けられている。被記録媒体の幅よりも大きい幅の画像を誤って印字してしまった場合など、プラテン60にインクが付着してしまった場合、ある体積以上のインクが溜まると、インクは重力やインクの表面張力により根元部分63に導かれ、ブラテンリブ61の側面を伝わって穴62からスムーズに排出される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 インクを吐出して被記録媒体に付着させることにより記録を行うヘッドと、記録を行う位置で前記ヘッドに対向する位置に前記被記録媒体を支持するブラテンとを有するインクジェット記録装置において、前記ブラテンが、前記被記録媒体をガイドするための突起部であるアラテンリブと、該アラテンリブの側方に該アラテンリブの側面に沿うように開けられた穴とを有することを特徴とするインクジェット記録装置。

【請求項2】 前記ヘッドを前記ブラテン上の前記被記録媒体の所望の記録位置に対向する位置に移動させるヘッド移動手段を有し、

主に使用される複数のサイズの前記被記録媒体にそれぞれ対応して、前記穴が、前記アラテンの、前記ヘッドの移動方向に関して各サイズの前記被記録媒体の端部の外側近傍の位置にそれぞれ設けられている請求項1に記載のインクジェット記録装置。

【請求項3】 請求項2に記載のインクジェット記録装置を用いたインクジェット記録方法であって、記録のためのインク吐出の前に、前記ヘッドの移動方向に関して、記録すべき前記被記録媒体の端部の外側近傍の位置に設けられた前記穴に対向する位置に前記ヘッドを移動する工程と、その後、記録に寄与しないインク吐出を行う予備吐出工程とを有するインクジェット記録方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はパソコン、ワープロ、ファクシミリなどの情報端末機器の出力装置として用いられるインクジェット記録装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 インクを吐出し、被記録媒体に付着させて記録を行う従来のインクジェット記録装置は、インクの被記録媒体への付着位置を決めるための主な構成要素として、インクを吐出するヘッドが搭載されるキャリッジと、キャリッジと共にヘッドを被記録媒体上で一方向に移動させ、その方向の記録位置をスキャンする主走査を行うためのヘッド移動手段と、被記録媒体を搬送するための搬送ローラと、搬送ローラの下流側で被記録媒体を支持し、記録を行う際に被記録媒体の印字面と記録ヘッドとの位置関係を精度よく保つためのアラテンとを有している。記録動作は、記録ヘッドが、搬送ローラでアラテン上に搬送された被記録媒体上をヘッド移動手段によって移動して主走査を行いつつインクを吐出し、被記録媒体に付着させることにより行われる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来のインクジェット記録装置では、被記録媒体として色々なサイズの用紙が使用される場合があり、記録画像の大きさと用紙の大きさが合致していることを確認するなどの目的で、用紙

の幅を検知するための用紙幅センサーが設けられる場合があるが、記録装置を簡素にして、製造コストを低く抑えるために、このような用紙幅センサーは搭載しない場合が多い。

【0004】 そこで、用紙の幅よりも大きい幅の画像を誤って印字してしまった場合には、アラテン上にインクが付着してしまう。このような場合には、清掃を行わずに長時間放置すると、アラテン上にインクが固着してしまい、固着したインクに用紙が引っ掛かるなどして搬送不良が生じてしまう危険があるため、アラテン上に付着したインクを清掃する必要がある。

【0005】 また、従来のインクジェット記録装置では、記録ヘッドからインク滴を適正に吐出させ、用紙への印字をより正確に行うため、印字を開始する直前に記録ヘッドからインクを吐出してインクの吐出口付近に新たなインクを導入し、この部分のインクの状態を適正にする、予備吐出動作が一般的に行われる。この予備吐出は、予備吐出によって吐出されるインクが被記録媒体やアラテンに付着しないようにするため、装置が搬送できる最大の用紙の幅よりも外側の位置、すなわち最大印字範囲の外側の位置まで主走査方向に記録ヘッドを移動させてから行われる。

【0006】 この予備吐出動作では、小さい幅の用紙に記録を行う場合であっても、最大印字範囲の外側の位置まで記録ヘッドを移動させる必要があり、その分、用紙1枚に記録を行う時間が長くなってしまふ。

【0007】 そこで、本発明の目的は、誤ってアラテン上にインクを付着させても、付着したインクを容易に除去できるインクジェット記録ヘッドを提供することにある。また、本発明の他の目的は、効率的に予備吐出を行うことができるインクジェット記録ヘッドを提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】 上記の目的を達成するため、本発明によるインクジェット記録装置は、インクを吐出して被記録媒体に付着させることにより記録を行うヘッドと、記録を行う位置でヘッドに対向する位置に被記録媒体を支持するアラテンとを有するインクジェット記録装置において、アラテンが、被記録媒体をガイドするための突起部であるアラテンリブと、アラテンリブの側方にアラテンリブの側面に沿うように開けられた穴とを有することを特徴とする。

【0009】 この構成によれば、用紙の幅よりも大きい幅の画像を誤って印字してしまった場合など、アラテン上にインクが付着してしまった場合、アラテン上にある程度以上の体積のインクが溜まると、アラテンリブ上に付着したインクは重力によりアラテンリブの根元部分に導かれ、アラテンリブが設けられていない部分に付着したインクは表面張力により集まろうとし、この際、付着面積が大きく移動しにくいアラテンリブの根元付近に付着

したインクに引き寄せられ、この部分に導かれる。このようにして、インクは、プラテンリブの根元部分に集まり、プラテンリブの側面に沿うように開けられた穴にプラテンリブの側面を伝わって導かれ、この穴からスムーズに排出される。

【0010】さらに、ヘッドをプラテン上の被記録媒体の所望の記録位置に対向する位置に移動させるヘッド移動手段を有し、そのインクジェット記録装置で主に使用される複数のサイズの被記録媒体にそれぞれ対応して、プラテンに、ヘッドの移動方向に関して各サイズの被記録媒体の端部の外周近傍の位置にそれぞれ穴を設ければ、記録のためのインク吐出の直前に、記録する被記録媒体の大きさに対応した穴に対向する位置にヘッドを移動させて、予備吐出を行い、この穴から吐出インクを排出させることができ、従来に比べて予備吐出時のヘッドの移動距離を短くすることができる。

【0011】

【発明の実施の形態】（実施例1）図1に本発明の実施例1によるインクジェット記録装置の概略図を示す。同図に示すように、インクを吐出して記録を行う記録ヘッド10は、インクを吐出する複数のノズルが規定の間隔で並んだノズル列が、黄色（Y）、マゼンダ（M）、シアン（C）、黒（B）のインク吐出用に4列設けられたノズル部11と、各色のインクを貯留するインクタンク部12とを有しており、図示しないキャリッジに搭載され、キャリッジと共に図示しないヘッド移動手段により、被記録媒体70の横方向（図1矢印B方向およびその逆方向）に主走査される。

【0012】被記録媒体70は、搬送ローラ20と、ピンチローラ31によりフリクションを得て搬送ローラ20に圧接されている、主走査方向（図1矢印B方向）に複数設けられたピンチローラ30とによって挟持され、搬送ローラ20の回転駆動によって、主走査方向に交差する方向（図1矢印A方向）に搬送され、搬送方向の記録位置を決める副走査が行われる。搬送方向の下流側には、記録後の被記録媒体70を排紙するための排紙ローラ40が設けられており、これに対向する位置に、被記録媒体70を該排紙ローラ40に圧接する拍車50が主走査方向に複数配置されている。拍車50は、被記録媒体70の未定着インクが付着しないように、先端が尖った形状になっている。搬送ローラ20と排紙ローラ40の間には、ヘッド10が記録を行う位置において、被記録媒体70とヘッド10との位置関係を精度よく保つためのプラテン60が設けられている。

【0013】次に本記録装置の動作について説明する。

【0014】最初に、搬送ローラ20が被記録媒体70をある所定量搬送し、この方向の記録位置を決める副走査を行う。次に、ヘッド10が主走査方向に移動してこの方向の記録位置を決める主走査を行いつつ、インクを吐出して被記録媒体70に付着させ記録を行う。本実施

例では、ヘッド10が図1矢印B方向に主走査を行いつつインクを吐出させて記録を行い、所定の記録幅の記録が終了した後、ヘッド10はインクを吐出することなく図1矢印B方向と反対方向に移動して、初期位置に復帰し、副走査動作命令があるときには、ヘッド10の復帰動作と同時に、搬送ローラ20が副走査を行う。これらの動作を所定の回数繰り返して1枚の画像の記録を行う。

【0015】次に、本発明の特徴であるプラテン60の構成について、図2に示したプラテン60の斜視図を参照して説明する。

【0016】同図に示すように、プラテン60の被記録媒体70との接触面（図の上面）には、被記録媒体70を適正な記録位置に保持するためのプラテンリブ61が設けられており、被記録媒体70はプラテンリブ61に接触した状態で搬送され、記録位置に導かれる。プラテンリブ61の根元部分63の両側には、プラテンリブ61の側面に沿うように穴62が開けられている。

【0017】このような構成のプラテン60を有するインクジェット記録装置において、用紙の幅よりも大きい幅の画像を誤って印字してしまった場合など、プラテン60にインクが付着してしまった場合、プラテン60上にある程度以上の体積のインクが溜まると、プラテンリブ61上に付着したインクは重力により下方の根元部分63に導かれ、複数のプラテンリブ61の間に付着したインクは表面張力により集まろうとし、この際、付着面積が大きく移動しにくい根元部分63付近のインクに引き寄せられ、根元部分63に導かれる。このようにして、インクはプラテンリブ61の根元部分63に集まり、プラテンリブ61の側面を伝わって穴62からスムーズに排出される。

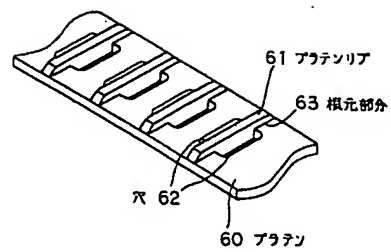
【0018】本実施例のインクジェット記録装置では、このように、プラテン60にインクが付着させてしまっても、付着したインクを穴62から排出することができるので、ユーザーがプラテン60の清掃を行わなくても、プラテン60上にインクが固着してしまうことを防止できる。

【0019】（実施例2）次に、図3に示したインクジェット記録装置のプラテン60部分の平面図を参照して、実施例2のインクジェット記録方法について説明する。本実施例では、記録装置の構成およびプラテン形状は実施例1と同様であり、説明を省略する。以下では、本実施例によるインクジェット記録方法の特徴である予備吐出の方法に関して説明する。

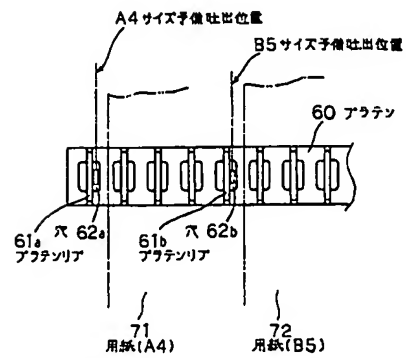
【0020】従来は、被記録媒体70として用いることが可能な最大の幅の用紙の両端よりも外側の位置に来るまでヘッド10を主走査方向に移動させてから、予備吐出を行っていたが、本実施例では、最大用紙幅よりも狭い幅の用紙に印字を行う場合には、その用紙の両端よりも外側の、プラテン60に対向する位置にヘッド10を



【図2】



【図3】



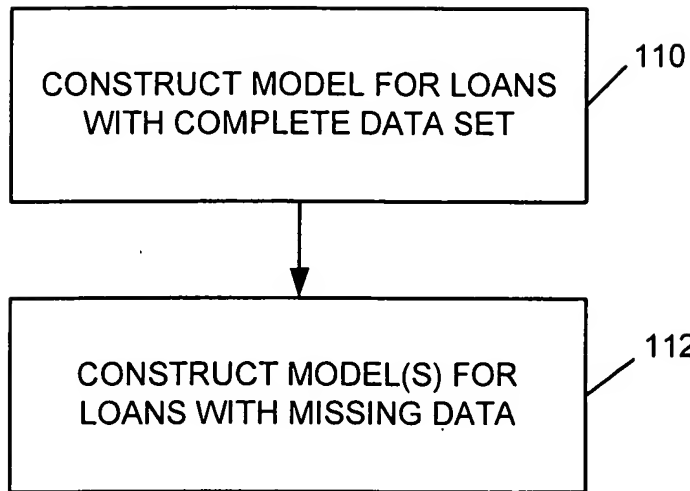


FIG. 1

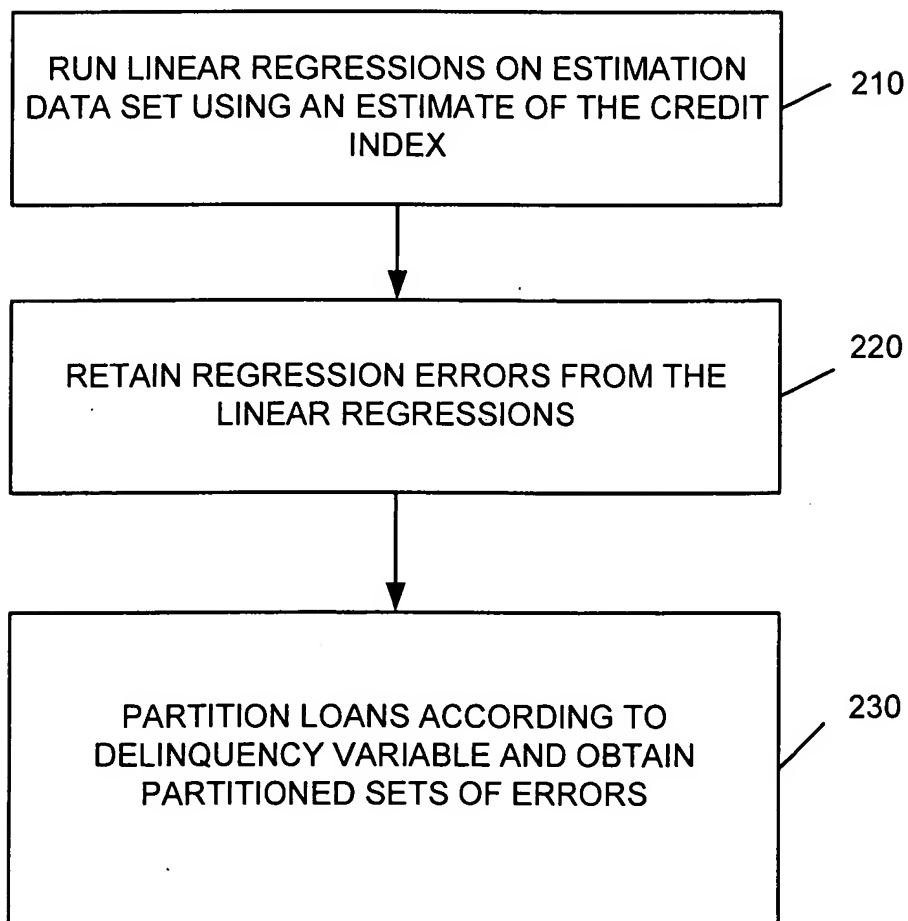


FIG. 2

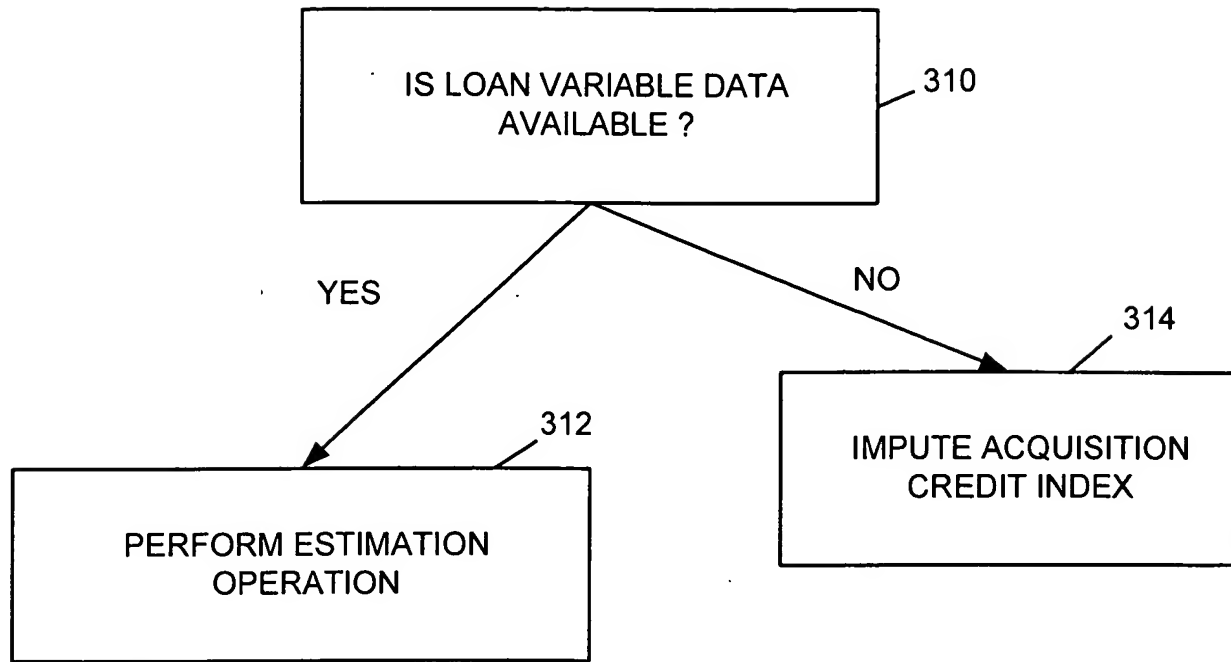


FIG. 3